

③『全国学力・学習状況調査』（児童生徒質問紙調査）

※ 75 の質問項目の一部

質問項目	学校種	筑前町	全国
挑戦心、達成感、規範意識、自己有用感等			
自分には、よいところがあると思いますか 「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」を選んだ割合	小学校	73.9	79.3
	中学校	74.0	78.5
学校に行くのは楽しいと思いますか 「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」を選んだ割合	小学校	87.9	85.4
	中学校	81.3	82.9
学習習慣、学習環境等			
学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾や家庭教師、インターネットの活用も含む） 「3時間以上」「2時間～3時間」「1時間～2時間」を選んだ割合	小学校	43.2	59.4
	中学校	53.1	69.5
ICTを活用した学習状況			
授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか 「ほぼ毎日」「週3回以上」を選んだ割合	小学校	52.2	58.2
	中学校	30.5	50.9
主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況			
学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか 「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」を選んだ割合	小学校	71.6	78.2
	中学校	75.2	74.7

「家庭、地域へお願い」
子どもたちの学力には、自分「かけがえない存在だ」「よいところがある」「やればできる」といった自尊感情や挑戦心などの見えない学力が大きな影響を及ぼします。様々なことに目標を持ってチャレンジし、やり遂げた満足感を味わうことができるよ

小学校第5学年では、国語も算数も課題が見られることから、小学校段階での基礎的・基本的な内容を確実に身に付けることが大変重要です。また、中学校では、小学校の学習内容を踏まえた指導が求められます。

算数・数学に課題
全国調査の結果から、小学校第6学年、中学校第3学年とも、国語の「書くこと」については、全国を上回っています。一方、算数・数学については、全国と県の調査結果を一体的に見ると、中学校第1学年までは全国や県との差はないものの、それ以降は、全国や県を下回っています。

算数・数学は、学習内容の系統性が強く、積み上げの教科です。前の学年や単元の内容を理解できていることが大切です。さらに、学年が上がるにつれ、徐々に抽象的で高度な学習になることから、小学校高学年を迎える前に学習につまずいてしまう子どもも見られます。そのため、子ども一人ひとりの学習状況を把握し、個に応じたきめ細かな指導をすることが大切です。

小学校第5学年では、国語も算数も課題が見られることから、小学校段階での基礎的・基本的な内容を確実に身に付けることが大変重要です。また、中学校では、小学校の学習内容を踏まえた指導が求められます。

子どもたちの学力には、自分「かけがえない存在だ」「よいところがある」「やればできる」といった自尊感情や挑戦心などの見えない学力が大きな影響を及ぼします。様々なことに目標を持ってチャレンジし、やり遂げた満足感を味わうことができるよ

小学校第5学年では、国語も算数も課題が見られることから、小学校段階での基礎的・基本的な内容を確実に身に付けることが大変重要です。また、中学校では、小学校の学習内容を踏まえた指導が求められます。

今後の方策
学校と教育委員会が一体となって、子ども一人ひとりの学力を育みます。
○算数・数学の基礎・基本の徹底
一人ひとりの理解の状況を分析します。
・学年や全教科の担任等で子どもたちの学習状況を共有します。
・学力向上のための取組を具体化・焦点化し、全職員で取り組めます。
・一人ひとりの学力が身に付いたかを見取り、取組の成果を検証します。
○個に応じたきめ細かな指導の充実
一人ひとりの学習の理解度やペースに応じた教材の提示、一人一台タブレットの効果的な活用、重点的な机間指導など、日常の授業を改善します。
○AEDリールによる家庭学習の充実
一人ひとりの理解度に応じた問題の出题や解き方の説明等の機能が備わったAEDリールの導入を検討し、休み時間や放課後、家庭でも、自分のペースで補充的な学習や予習ができるようになります。

学校と教育委員会が一体となって、子ども一人ひとりの学力を育みます。
○算数・数学の基礎・基本の徹底
一人ひとりの理解の状況を分析します。
・学年や全教科の担任等で子どもたちの学習状況を共有します。
・学力向上のための取組を具体化・焦点化し、全職員で取り組めます。
・一人ひとりの学力が身に付いたかを見取り、取組の成果を検証します。
○個に応じたきめ細かな指導の充実
一人ひとりの学習の理解度やペースに応じた教材の提示、一人一台タブレットの効果的な活用、重点的な机間指導など、日常の授業を改善します。
○AEDリールによる家庭学習の充実
一人ひとりの理解度に応じた問題の出题や解き方の説明等の機能が備わったAEDリールの導入を検討し、休み時間や放課後、家庭でも、自分のペースで補充的な学習や予習ができるようになります。

令和4年度 全国学力・学習状況調査、福岡県学力調査の結果

県教育課 ☎ 22-3385

令和4年度の全国学力・学習状況調査、福岡県学力調査における町の結果をお知らせします。これらの調査の目的は、児童生徒一人ひとりの学力や学習状況を把握、分析して、教育施策の成果と課題を検証し、児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てることです。全国と県独自の調査を通して、小学校第5学年から中学校第3学年までの学力の状況を継続的に把握できます。ただし、調査により測定できるのは学力の特定の一部であり、本町の教育活動の一側面であることに留意し、単に数値のみに着目せず、様々な視点から子どもたちを評価することが重要です。

調査の概要

※出題範囲は、調査対象学年の前学年までの指導内容

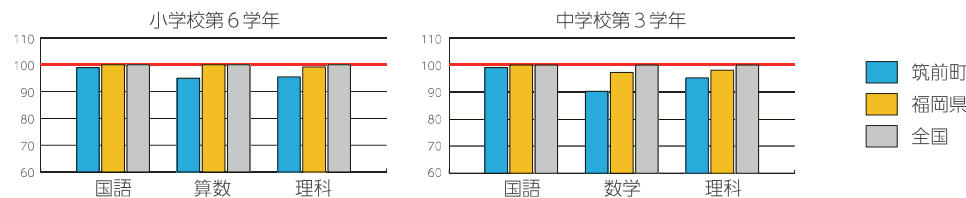
	全国学力・学習状況調査	福岡県学力調査
調査対象	小学校第6学年、中学校第3学年	小学校第5学年、中学校第1・2学年
調査内容	教科に関する調査（※） 国語、算数・数学、理科（理科は3年に1度実施）	教科に関する調査（※） 国語、算数・数学
	生活習慣や学習環境に関する質問紙調査 (児童生徒に対する調査、学校に対する調査)	-
調査実施日	4月19日◎	6月21日◎

調査結果の概要

①『全国学力・学習状況調査』

※グラフは、全国平均を100とした値

小・中学校ともに、国語は全国や県と同程度であるが、算数・数学、理科は、全国や県を下回っている。



②『福岡県学力調査』

※グラフは、県平均を100とした値

中学校第1学年の国語と数学は、県と同程度である。小学校第5学年と中学校第2学年の国語、算数・数学は、県を下回っている。

